

SIMPHONY OF EVANGELION

エヴァンゲリオン交響楽

1997年7月6・7・8日

Bunkamura オーチャードホール

Shiro Sagisu: Artistic Director

Derrick Jones: Conductor

New Japan Philharmonic


Hidenori Anno: Supervisor

NEON GENESIS EVANGELION

Oct. 9, 95 - Jul. 10, 97



SCRIPTURA
ET
EVANGELIUM



エヴァンゲリオン交響楽

1997年7月6(日)・7(月)・8日(火)
Bunkamura オーチャードホール

音楽監督：賀英詩郎

指揮：デリック・イノウエ

演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団

監修：庵野秀明

主催：テレビ東京

企画：セラフ

協力：キョードー東京

協賛：EVA製作委員会 UCC上島勲理株式会社

公演曲目 THE PROGRAM

第壹部 PART I

壹 ベートーヴェン 交響曲第九番 二短調 作品125

[合唱]より第四楽章(抜粋)

Ⅰ L.V.BEETHOVEN: SYMPHONY NO.9 IN D MINOR
OP.125 "CHORAL" 4th MOVEMENT(EXCEPT)

合唱/東京アカデミックカペレ TOKYO ACADEMISHCAPER Chorus

ヴァイオリン/落合徹也 Tetsuya Ochiai, Violin

ヴァイオリン/川井郁子 Ikuko Kawai, Violin

ヴァイオリン/高橋直之 Naoyuki Takahashi, Violin

ヴィオラ/大沼幸江 Sachie Onuma, Viola

チェロ/柏木広樹 Hiroki Kashiwagi, Violoncello

貳 TOKYO-3

Ⅱ C-7

編曲/筑紫将郎, 天野正道 Shiro Sagisu, Masamichi Amano, Arrange

合唱/東京アカデミックカペレ TOKYO ACADEMISHCAPER Chorus

参 EVA-01

Ⅲ E-3

編曲/斉藤恒秀 Tsuneyoshi Saito, Arrange

合唱/東京アカデミックカペレ TOKYO ACADEMISHCAPER Chorus

四 DECISIVE BATTLE

Ⅳ E-1

編曲/天野正道 Masamichi Amano, Arrange

伍 戦闘組曲

Ⅴ SELECTIONS FROM ACTION THEME FOR "EVANGELION"

EVA-00 E-5

NERV A-3

A STEP FORWARD INTO TERROR E-9

編曲/天野正道 Masamichi Amano, Arrange

六 Rei I

Ⅵ A-1

編曲/服部隆之 Takayuki Hattori, Arrange

ピアノ/北るみこ Rumiko Kita, piano

七 RITSUKO

Ⅶ C-5

編曲/筑紫将郎 Shiro Sagisu, Arrange

ピアノ/クリヤ・マコト Makoto Kuriya, piano

ギター/マイク・ウィズゴフスキ Mike WYZGOWSKI, Guitar

八 I.SHINJI

Ⅷ A-6

編曲/斉藤恒秀 Tsuneyoshi Saito, Arrange

ピアノ/北るみこ Rumiko Kita, piano

合唱/東京アカデミックカペレ TOKYO ACADEMISHCAPER, Chorus

休憩 INTERMISSION

第貳部 PART II

九 「エヴァンゲリオン」クラシック・メドレー

IX MEDLEY CLASSIC PIECE FROM "EVANGELION:DEATH"

バッハ 無伴奏チェロ組曲 第一番 ト長調 作品1007より前奏曲

J.S.BACH: SUITE NO.1 FOR VIOLINCELLO SOLO III G MAJOR BWV.1007 I PRELUDE

バッハ 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第三番 ホ長調 作品1006よりガヴォット

J.S.BACH: PARTITA NO.3 FOR VIOLIN SOLO III E MAJOR BWV.1006 III GAVOTTE & RONDO

バッハヘルベル 三声のカノンとジーク ニ長調

J.PACHELBEL: CANON A 3 ON A GROUND IN D MAJOR

1) 弦楽五重奏 QUINTET

2) 弦楽五重奏&RAP QUINTET & RAP

3) オーケストラ ORCHESTRA

編曲/鷺巣詩郎 Shiro Sagisu, Arrange

ヴァイオリン/落合優也 Tetsuya Ochiai, Violin

ヴァイオリン/高橋直之 Naoyuki Takahashi, Violin

チェロ/鈴木匡樹 Hiroki Kasaiwagi, Violincello

ラップ/MALI MALI RAP

ヴァイオリン/川井郁子 Ikuko Kawai, Violin

ヴィオラ/大沼幸江 Sachie Onuma, Viola

拾 THANATOS

X E-13

編曲/服部隆之 Takayuki Hattori, Arrange

拾壹 「エヴァンゲリオン」エスニック・メドレー

XI SELECTIONS FROM ETHNICAL THEME FOR "EVANGELION"

BORDERLINE CASE A-4

MOTHER IS THE FIRST OTHER A-10

編曲/鷺巣詩郎, 佐藤敏夫 Shiro Sagisu, Katsuke Shinohara, Arrange

合唱/東京アカデミックカペレ TOKYO ACADEMISHCAPER, Chorus

拾貳 FLY ME TO THE MOON 作詩・作曲/バート・Howard

XII FLY ME TO THE MOON MUSIC AND LYRICS BY BART HOWARD

編曲/鷺巣詩郎, マーティン・ラッセルス Shiro Sagisu, Martin LASCELLES, Arrange

ヴォーカル/ロレン&??? LOREN & Special Secret Guest Singers

ピアノ/クリヤ・マコト Makoto Kuriya, piano

拾参 ハンデル オラトリオ「メサイヤ」より「ハレルヤ」

XIII G.F.HANDEL: Hallelujah FROM MESSIAH

合唱/東京アカデミックカペレ TOKYO ACADEMISHCAPER, Chorus

作曲・音楽監督/鷺巣詩郎 Shiro Sagisu, Composer, Artistic Director

指揮/デリック・イノウエ Derrick Inouye, Conductor

管弦楽/新日本フィルハーモニー交響楽団 New Japan Philharmonic

監修/庵野秀明 Hideaki Anno, Supervisor

プログラムは予定曲目です。出演者等の都合により、当日変更になる場合もございますことをご了承下さい。

Composer; Artistic Director

鷺巣 詩郎

Shiro Sagisu



1957年8月29日、東京都出身。
78年、T・SQUAREのメンバーとしてデビュー。
作・編曲活動を始め。79年にソロアーティスト
としてデビュー。3枚のリーダーアルバムを発表。

80年より、小泉今日子、中森明菜、中山美穂、
クライズラー&カンパニーなど、多岐にわたるアー
ティストのレコード制作に作編曲家、音楽プロデュ
ーサーとして参加。作品数は2000曲以上にのぼり、
セールス枚数は常にトップランクを保っている。

CM、映画、ゲームなど、幅広いメディアに作品
を提供。映画音楽にF1ドキュメンタリー『ポール
ポジション』が、アニメ作品のスコアに『メガンゾ
ン23』『ふしぎの海のナディア』等がある。

90年よりヨーロッパでの活動が増え、近年はイ
ギリスのソウル、R&Bアーティストを多く手掛け
る。96年にはRo-JAMレーベルを設立。ロンドン
発のプロデュース作『MASH』『LOREN』が、日
本国内でも好セールスを続けている。

ジェネレーションの楔(くさび)

ビートルズとか美空ひばりじゃない。そんな大袈裟なやつじゃなくて、つまり「時代の象徴」とか、解散し
たり死んじったりすると「一時代の終焉」とか騒がれるのとは、ぜんぜん違って……エートそうじゃなくてサそ
んな表舞台からはチョット離れた所から、いや、キモチ斜め裏側から、いきなり寸分の狂いもなく正確に、し
かもかなり冷徹に(ゴルゴ13じゃ)、ジェネレーションに楔を打ち込める人って居るモンです。

庵野さんって、そんな人だと思いませんか? ハイ、僕はそー思います。

例えば、80年代だったらトレヴァー・ホーンかな、彼の(アート・オブ・ノイズ)とか(グレース・ジョーンズ)なんて、
確実に打ち込まれたってなカンジだよね。90年代はなんつってもジョン・ガリアーノでしょ、やっぱ(ジバンシー)
とか(ディオール)の老兵を、見事に狂気のアヴァンギャルドに塗り替えたもん。

モーツァルトもビートルズにしてもオリジナリティー(独創)のバケモノだからこそ確かに偉大だ。ぐうの音も
出ない。キラいなんて口が裂けても……。

でも、「自分のオリジン(起源)って何だろう?」もっと平たく言えば、「自分の好みの追究」かな、そんな雰
囲気に世の中全体が傾いてきた。同じビートルズでも、こないだの再結成はカンペキに後者のパターンでし
よ。色々やったけど、やっぱ好きだったのはコレって戻っちゃったんだもの。結局「オレはコレがこんなに好き
なんだゾー」って開き直ってるスゴ味がありーので、何もかも脱ぎ捨てた「露出狂」的な狂気も同居して
るのがいまはいちばんカッコイイかも。ただし完璧じゃないと、もんのすごくカッコ悪い。寸分の狂いもなく正確な
「露出狂」でないとハズシちゃう。

サンプリングの醍醐味はもちろん「素材」選びにあるが、それだけでは単にオイシイだけで毒がない。そ
の素材をスケベに弄りたおすという「行為」こそがホンモノの「サンプリング魂」である。

「素材」より「行為」が全面に押し出された(新世紀エヴァンゲリオン)で庵野さんは間違いなく同世代に
むけ、その比類なき「サンプリング魂」を余す所無く発揮して、ひいては全ジェネレーションに楔を打ち込んだ。

曰く「エヴァ以前」「エヴァ以後」。こうやって、あとから分析するのはバカでも出来る。ボクでも出来る。
スゴイのは庵野さん。あっ、コンサートの話してませんネ。ごめんなさい。

デリック・イノウエ

Derrick Inouye



1956年、カナダ・ヴァンクーヴァーに生まれる。
75年に来日、桐明学園指揮科で秋山和慶、小澤
征爾、尾高忠明の各氏に師事する一方、小澤征爾の
アシスタントをつとめた。

81年、タングルウッドの指揮セミナーに参加、バ
ーンスタイン、マルケヴィチらに学び、83～85年
の夏にはイタリア・シエナ音楽院でフランコ・フェ
ラーラ氏に師事。この間、ジェームズ・レヴァイン
にも教えを受け、85年にはイタリアでの第4回ヴィ
ットリオ・グイ指揮者コンクールで優勝。

81～85年、ヴァンクーヴァー響の副指揮者を務
め、同響の定期やトロント響などカナダ国内で数多
く客演。85年～90年、カナダ・レジナ響の音楽監
督として活躍。86年からはニューヨークにも居を
構え、メトロポリタン・オペラの副指揮者を務め、
カナダ以外にも合衆国や欧州各地のオーケストラに
客演している。

95年シュトゥットガルト放送管弦楽団を指揮、
その後たびたび「カルメン」「ラ・ボエーム」「仮面
舞踏会」等でシュトゥットガルトオペラにも客演。
96年イギリスナショナルオペラの「フィガロの結
婚」でロンドンデビュー。12回の公演は、「奇跡の
才能」「心に残る本当のフィガロ」と絶賛された。

今シーズンは、ニューヨーク・シティ・オペラで
「フィガロの結婚」を指揮。同劇場では来シーズン
「魔笛」の公演が決定している。

指揮者

エヴァンゲリオン交響楽、客演参加のご挨拶

「新世紀エヴァンゲリオン」はアニメ大國日本において、まさに前代未聞の社会現象を巻き起こした。2年前にぼくがスタジオでエンディング・テーマの「フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン」を演奏したとき、一体誰がこのことを予測し得ただろうか？ ぼくはたまたま縁があって、劇場版のサウンドトラックにも参加させていただくことができた。すでに数枚リリースされているサウンド・トラックの売れ行きから考えても、「エヴァ」における音楽の役割は絶大だ。庵野監督は非常に音楽に造詣の深い方だと聞いているし、音楽監督の鷺巣詩郎氏は独創的でアイデアに満ちているという点で日本でも屈指の素晴らしいプロデューサーである。つまり今回のコンサート「エヴァンゲリオン交響楽」が全てのファンから待望されていたことは間違いなく、このようなコンサートに参加できることは、ぼくを初め全ての客演者にとって非常に喜ばしいことなのだ。

+

このコンサートは言うまでもなくクラシック・オーケストラと合唱隊が主役で、十数名に及ぶ客演者もクラシックの名演奏家の方が多いが、中にはぼくのようなジャズ、ポピュラー畑のミュージシャンや、マーティン・ラッセルズ、ロレーンといった本場のR&Bアーティストも含まれている。まさに「エヴァ」という器があってこそ可能になった、意外な顔合わせだといえよう。出演者としては彼らとの音楽的邂逅を大いに楽しみたいと思っている。ご来場した皆さんは、今回のコンサート用に新たにアレンジが施されたものも含めて、ライブの迫力を十分に楽しんでいただきたい。

クリヤ・マコト/ピアニスト

Guest Musician

introducer—Shiro Sagisu

S I N G E R

????

(あけてビックリ当日のお楽しみ)

LOREN

ロレーン

現在22才の若さながら、幼少時から

教会のゴスペルコーラス隊(大リーグに近い)で鍛えられ、

磨かれた素晴らしい才能が遂に花開いた。先のシングルはイギリスに於て、各チャートを賑わせた。

ミニアルバム「フィクスーアップ!!」は日本でも入手可能。

プロデューサーとしてナント鷺巣も名を連ねている。

客演楽

Eva Special STRING QUARTET+1

何で五重奏と言わないか？ 答はカンタン。「DEATH」をご覧ください。
史上最強のメンバー!! このグループでも何度もエヴァ・レコーディングを行っている。

落合 徹也 — ヴァイオリン

Tetsuya Ochiai

芸大卒。G-CLEFの解散は惜しいネ。
超技巧派っていうと本人は嫌がるだろうけど、彼の何気の試し、遊び弾きにはいつもドキッとす。
ソロに転向もしたし、いっちょやっつたれ!!
キューティーハニーでアニメに目覚める(極めてノーマル)とは本人の弁。

川井 郁子 — ヴァイオリン

Ikuko Kawai

芸大卒。篠山紀信に撮られ週刊現代の表紙を飾ったほどの美形。
「ウチの嫁に」的なジジ殺しかと思いきや、
ときめき夢サウンドでのファンレターは圧倒的に女性から。
しかもヴァイオリンも死ぬ程ウマイ!! という才色兼備の天然ボケ美人
超天然記念物。

高橋 直之 — ヴァイオリン

Naoyuki Takahashi

芸大卒。「POWER LIGHTS」で今年末にデビュー予定の23才の若き才能。
このエヴァ・スペシャルはヴァイオリン奏者が3人ともそれぞれCDを出してるってのがスゴイ。

大沼 幸江 — ヴィオラ

Sachie Onuma

芸大卒。わが国では演奏に信頼がおける(平たく言うと上手ってこと)
ヴィオラ奏者はホント少ない(平たく言うと下手ってこと)。
しかし彼女はウマイ。

柏木 広樹 — チェロ

Hiroki Kashiwagi

芸大卒。レコーディング時からシンジ君のチェロをささえてきたのは誰だろう、この柏木だ。
こう言うと声優さんみたい。
「DEATH」録音時、庵野さんが「前売り完売」「下頃のシーン」とかプレッシャーかけてたっけ。
彼もG-CLEFのメンバーだった。

Guest Musician

P I A N O

クリヤ・マコト

Makoto Kuriya

エヴァ・レコーディングの常連。

大森俊之氏アレンジの「FLY ME TO THE MOON」から、鷺巣アレンジのものまで、

まさにエヴァ・サントラ必備ピアニスト。

ところで、演歌衰退が言われて久しいけどジャズも何とかして欲しい。もちろんマコトの才能で。

北 るみこ

Rumiko Kita

エヴァ・レコーディングには「DEATH」サントラから登場。

庵野さんのピアノ好きが高じて、なんとこの時は

ダブル・ピアニスト+オケの同録という豪華版となった。

鷺巣としては、森雪之丞バンド時代のるみちゃんがチョット懐かしい。

GUITAR ; TRANSLATION & LYRIC

Mike WYZGOWSKI

マイク ウィズゴウスキ

マイクは元来とても優秀なソングライター。

イギリスではヒットチャートの常連。

アメリカでもビルボード全米ダンスチャートNo.1に彼の作品が輝いた。

エヴァでは庵野さんの詞や世界観を英訳して、何曲かの英詞ヴァージョンを作った。

R A P

MALI

マリ

「エヴァにラップ!?」とお思いでしょうが、どの曲に入るのかは当日のお楽しみ……

ストーリーをたっぷり説明した後に出来上がってきた彼のラップには聖書の引用も。

ロンドン近郊のブリクストンではこの間も暴動があったけど、そこに住む彼はイイ奴。

鷺巣 詩郎

Shiro Sagisu

ゲストではないが「エヴァ歴」は秋葉駅ホーム上の喫茶店(当然も)驚いて
磯野さんに前説を聞いて以来もう3年。

今回は映画版の書きもあってアブナイので以下各氏に編曲を依頼した。
田中公平氏に「ヒマでもやらん」と断られた嫌われ度No.1編曲者

Martin LASCELLES

マーチン ラッセルズ

英国人コンポーザー、プロデューサー。

鷺巣詩郎の相方。ホモではない。仕事上の。ビルボードNo.1も持つ超人物。

今回は二人の素晴らしい女性シンガーを

鷺巣詩郎と共に「エヴァンゲリオン交響楽」の為に調教した。

やはりホモではないのだ。

天野 正道

Masamichi Amano

彼の書いた「シャイアントロボ」を初めて聴いた時「あ、良^いな^あ」っ
スグ思った。初対面で確認したらやっぱり同世代だった。

二人共さんざんチクロを与えられ育ったもんだから

感じる「旨味」も一緒とは、ウレシイ。でもチクロは情けなかった。

服部 隆之

Takayuki Hattori

言わずと知れたサラブレッド。父克久氏にはレコ大の時

「コラッ! サギスー、スカート履いて指揮すなー」と叱られたが、

隆之氏がスカート履いたらやっほ叱られるだろうな。

彼とは偶然出くわす事が多い「ロシア」空、ロンドン、丸井前、メシ屋、赤い糸かも。

斉藤 恒芳

Tsuneyoshi Saito

クライズラー&カンパニーの登場は衝撃的だった。

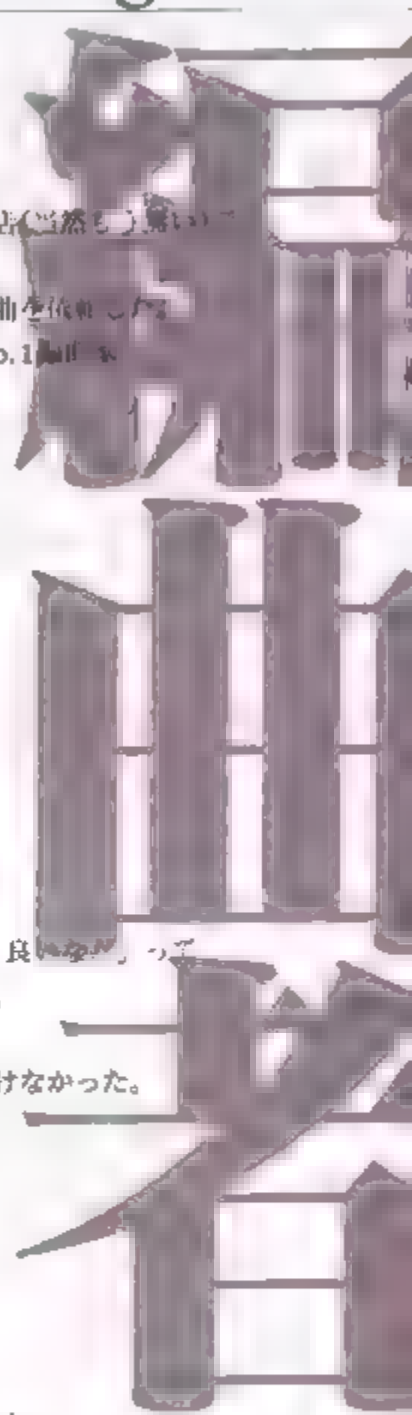
当初、鷺巣80%、恒20%で譜面を書いてしたが、すぐに逆転した。

編曲して譜面を書くという事は文章と違い誰にでも出来る事ではない

恒が書いたミラノスカラ座室内楽があまりに素晴らしい

僕と彼女は感動で涙した。逸材である。

同級の広瀬香美は編曲については恒の爪のアカが必要。



Special Guest Appearance



緒方 恵美

Megumi Ogata

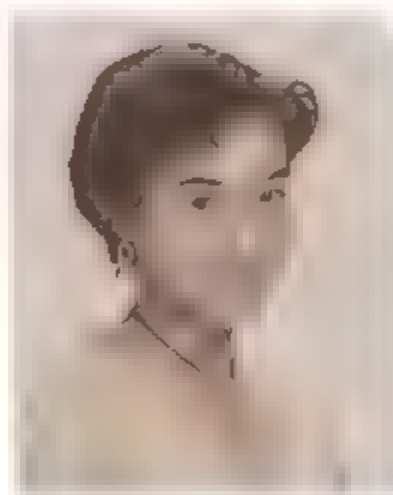
6月6日生まれ 青 プロダクション所属 東京都出身
血液型B型。レギュラーデビュー作『潮☆遊☆白☆恋』で
阿白年ら生きている妖怪にして美少年・経典を演じ、特に
女性ファンから絶大な拍手を受ける。続く『美少女戦士セ
ラームーンS』では『隊の男役的な魅力あふれる天と
はるかを演じ、その人気を不動のものとした。微妙な息遣
いを基調とする巧みな芝居づくりには定評があり、本作の
院シンシ役でも、繊細な少年の心情を見事に表現して、そ
の實力は遺憾なく発揮した。ラジオ、CDでも活躍中。今
夏公開の映画『タイム・リープ』の主題歌も歌っている



三石 琴乃

Kotono Mitsuishi

12月8日生まれ。アーツビジョン所
属。東京都出身。血液型A型。現在の
第3次声優ゲームの立役者にして
老引役。『美少女戦士セーラ
ームーン』の野々々さき役でのセニョクな
台詞回しは、アニメファンのみなら
ず広く一般に尊敬したことは記憶に
新しい。自身は、さき役に代表さ
れるような「明るい役柄の多かった
彼女の、新たな代表作といえる。異
域ミサト役では、子供らしさを残し
た大人の女性という、アンバランス
な「生々しさを雄実に表現し、人気
に負けない實力者ぶりを印象づけた
劇団あかべや劇楽部での舞台活動も
熱心にこなし、芸能をぶげている

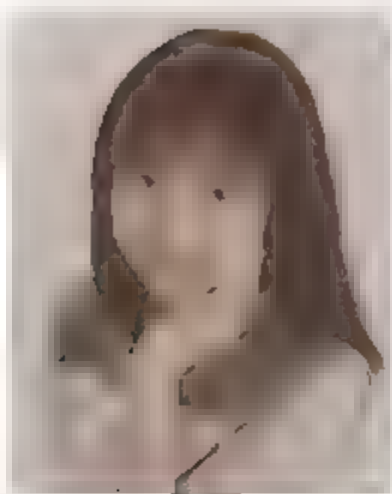


山口 由里子

Yuriko Yamaguchi

11月21日生まれ。81プロデュース所属。大阪府出身。血液型B型。本
作が初めてのアニメレギュラーであった彼女。そのこなれ、のびやかさ
ホムリツコ博士の、感情を押し殺したような命脈な部分をそだていた
また、実年齢と近いことも手伝って、演技だけではなく、生身の部分と
併覚させるような雰囲気を感じ出されていたように感じ、ファンも少な
くなく。本作以前は、人形劇や日中合作の芝居など、主に舞台で活
躍していた。他に『バケツでごはん』のミケミ、『愛天使伝説 クエ
ィングビーチ』のカチューシャ、『新・天地無用!』の良鳥など

特別出演



林原めぐみ

Megumi Hayashibara

3月30日生まれ。アーツビジョン所属。東京都出身。血液型O型。人気声優とも当世若手声優の第一人者。現在の第3次作機組ーム以前より人気を誇り、レイの機組ームの機組役を果たした存在。声優だけでなく、ランオパーソナリティ。歌手としても活躍。CDアルバムは常にベスト10以内に入る。この度は、まさに山のプロデュースという、業が相応しい。あらゆる役柄をこなせるが、あえていえば、『スレイヤーズ』シリーズの、ナという個性の少女を得意とする。それだけに本作の寡黙な少女・鏡波レイは、彼女にとっても大きな挑戦であった。



宮村優子

Yūko Miyamura

12月4日生まれ。M・Tプロジェクト所属。長崎県出身。血液型O型。現在もっとも人気を集めている若手声優のひとり。本作の忍波・アスカ・ラングレーが、彼女がブレイクする。その人きなきっかけになったことに、驚義を挟むものはいないだろう。アスカはもとより、『愛天使伝説ウェディングピーチ』のひなきなど、陽気な女の子役が彼女の持ち味である。ランオ番組『村嬢の直球で行こう!』。古劇『根性戦隊ガッツマン』。CDアルバム『ケンカ番長』など、熱血ぶりを強調した独特のメディア展開も話題になった。代表作は他に『はいばーほりす!』の夏姫など。愛称はみやむ。



長沢美樹

Miki Nagasawa

7月11日生まれ。東京俳優生活協同組合(俳優)所属。福島県出身。血液型A型。現在人気上昇中の若手声優、『KEY THE METAL IDOLE』の堀川さくらや『勇者指をダクオン』のマリアといった人気少女から、OVA『地獄黙示録通信』のヨーチンのようなこずめるい男の「まで」役柄をばけて、今後の活躍が期待される。特に『機動新世紀ガンダムX』のハーラ・シスは、その弾けた演技が印象的。本作ではオペレーター・の伊吹マヤを演じ、目立った活躍はないながら、その女の「らしき」が清涼剤となって来た。劇団へろへろQカムパニーでの舞台や、ラジオパーソナリティーでも精力的に活動中。


PROGRAM NOTE

曲目解説

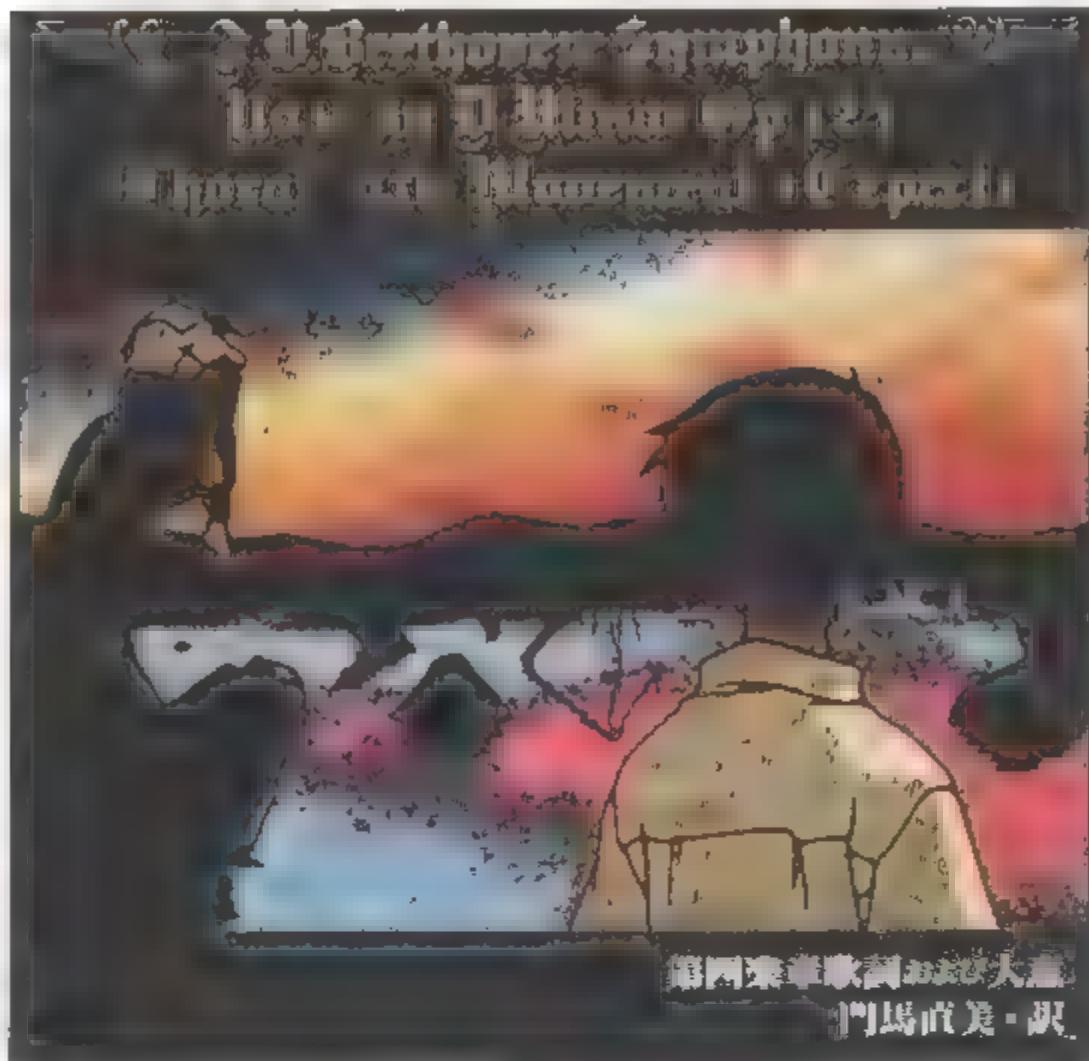
早川 優
小黑祐一郎



第壹部 PART I

 ベートーヴェン 交響曲第九番 二短調
作品125 「合唱」より第四楽章(抜粋)

L. V. BEETHOVEN: SYMPHONY NO. 9 IN D MINOR
OP. 125 "CHORAL" 4th MOVEMENT (EXCERPT)



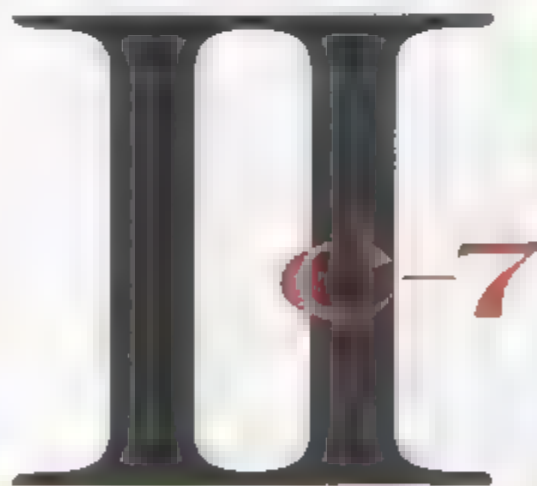
大正時代歌集
門馬直美・訳

(Bartol solo)
O Freunde nicht diese Töne
Sondern lasst uns
angenehmere anstimmen
und treudenvoller
(Bartol solo Chor)

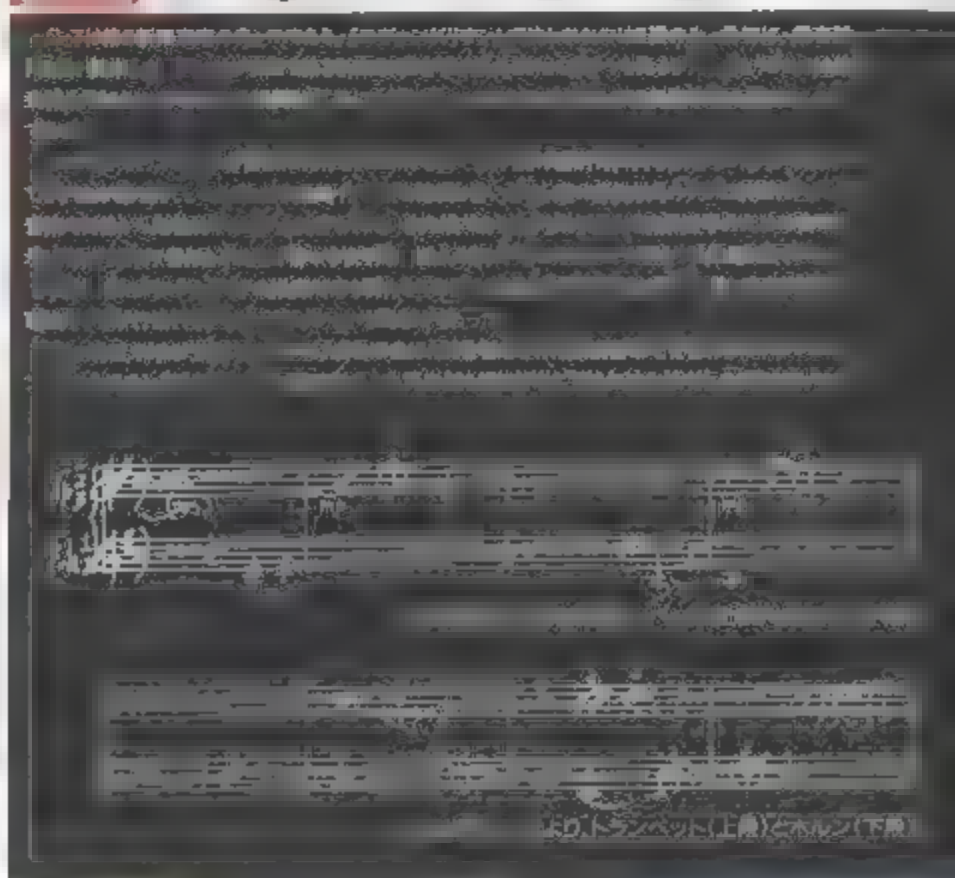
Freude! Freude!
Freude schöner Götterfunke
Fochter aus Elysium
wir betreten feuertrunken
Himmliche, dein Heiligtum
Deine Zauber binden wieder
was die Mode streng geteilt
alle Menschen werden Brüder
wo deine sanfter Fluge weilt
Deine Zauber weilt

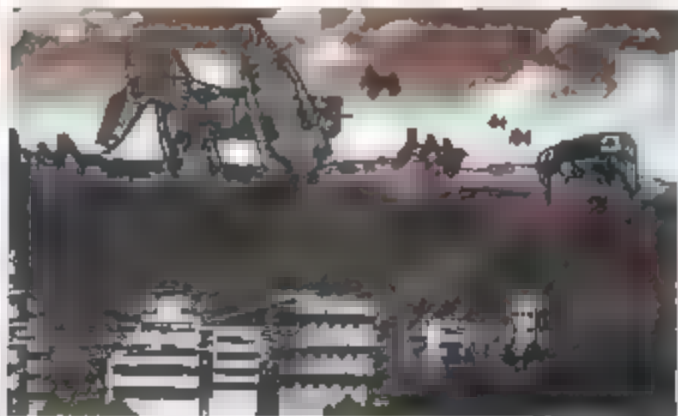
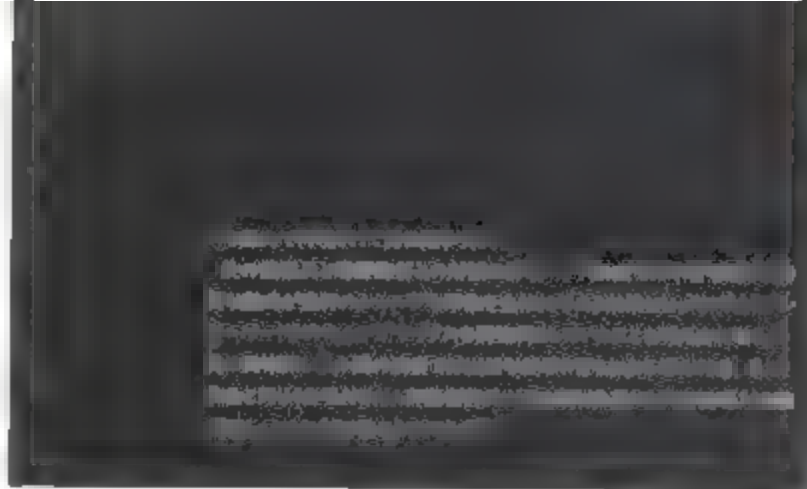
(Quartett)
Wenn der grosse Wurf gelungen
eines Freundes Freund zu sein
wer ein holdes Weib errungen
mische seine Jube, ein
Ja, wer auch nur eine Seele
sein nennt auf dem Erdenrund
Und wer sie nie gekannt, der stelle
wennend sich aus diesem Bund

(Chor)
Ja, wer auch nur eine Seele
(Quartett)
Freude trinken alle Wesen
an den Brüsten der Natur
alle Guten, alle Bösen
folgen ihre Rosenbusen

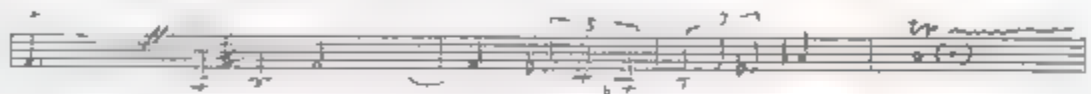


TOKYO-3



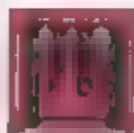


E 3より、ヴァイオリン



E 3より、ヴァイオリン

V



DECISIVE BATTLE

伍 戦闘組曲

SELECTIONS FROM ACTION THEME
FOR "EVANGELION"

EVA 00 E-5
NERV A-3
A STEP FORWARD INTO TERROR E-9



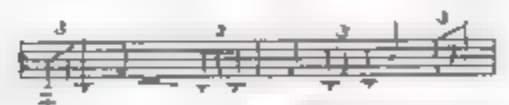
E-5より チェロ



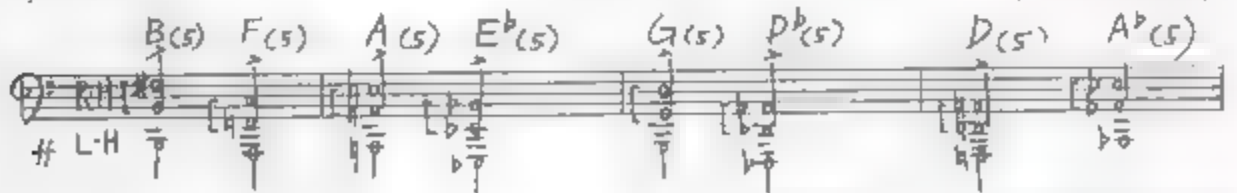
A-3より トランペット



E-9より トランペット



E-9より、ホルン



E-5より、ヴァイオリン(上段)とピアノ(下段)



F. horn & Tb. 1st ヌニゾンテ

心譜例10 A-3より、ホルン

VII

C-5

七 RITSUKO

C-5の原曲は、フォーク・ギターとアコースティック・ピアノだけで演奏されるシンプルナンバー。録音時のメニューでは「静かに想いをめぐらせる(静しなく、ひよがらす、淡々と)」とされている。サウンド収録時タイトルが表示通り、本編ではいずれもリツコに関連したシーケンスで用いられている。

最初の使用は第九話において、関係各者からの劇大な書類の山と対峙するミサトにリツコが使徒増減のアイデアを届ける場面と、加持が原因でブルーになるミサトをリツコがからかう場面でそれぞれ使用された。また、第拾伍話「嘘と沈黙」では、知人の結婚式に参って出席した加持、ミサト、リツコの3人が、式後にグラスを傾けるパーティのシーンに流れている。いずれもリツコの淡い女心が本曲に託されて表現されていた。

「キース・シャレット風の牧歌的フレーズで」との指定とコード進行以外、基本的に演奏者に任されていた本曲。今回のコンサートでは当初、前曲「Rei」の中に組み込まれる予定だったが、最終的に独立した形で演奏されることになった。詞筆氏本人のリアレンジにより、リツコほどの表情を見せてくれるだろう。



A-6 VIII

八 SHINJI



実は使徒のテーマとして作られた経緯のあるA-6も、本編で使われたのは第拾話だけ。ただ、これもファンには印象的な曲のひとつである。セルフ本編に使徒が迫る、ゲンドウやミサトは、エヴァ初号機に乗れとシンジに言う。だが、シンジはそれを拒否する。だが、誰もシンジの気持ちも思いやっではくれない。

牧歌曲によるホレロのリズムに乗って、沈痛な表情を伴ったメロディ(原曲15)がピアノによって切々と繰り返されていく。楽巻誌では、後半部の音階の上昇を含みつつ落ちていく旋律がシンジの悲愴な心に見事にシンクロしながら、迫る危機をも描写していた。主題は、トランペット・ソロ、ストリングスへと受け継がれて終結部へ向かう。今回は斎藤直芳氏のアレンジにより、合奏付きで演奏される。

右手 コラシカルに

Ac.p.

●原曲15: A-6より、ピアノ



E-13

拾 THANATOS



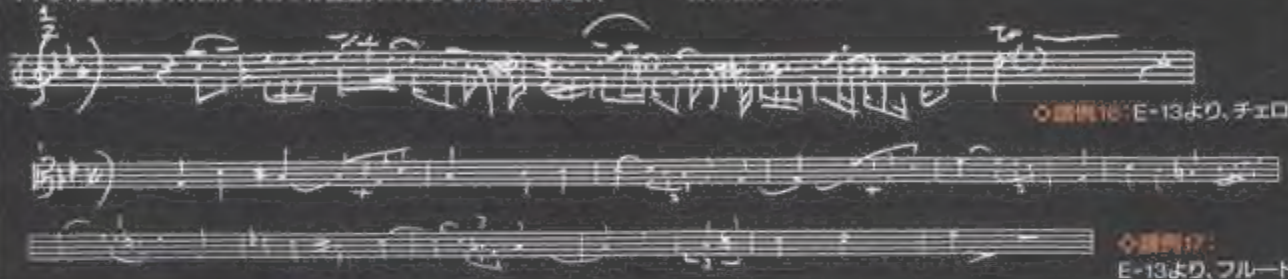
「エヴァンゲリオン」の劇中音楽は、2回に分けられて録音されている。今回のコンサートで演奏される「エヴァ」のオリジナル・スコア中、このE-13が唯一の第2回録音からのナンバーである。

本編での効果の使用例の内、鮮烈なものとして心に残るのは第拾九話「男の戦い」の中盤シーンである。エヴァを降りたシンジに加持が襲いかけ、レイは使徒に捕まて身の攻撃を受ける。そして、エヴァに乗るために走り出すシンジ……。低弦楽器群が奏する哀しみに満ちた主題【楽例16】とピアノが活発に刻むリズムが、その本作品最大の交差点の緊張感を最大

限に高める役割を果たした。ある意味で、今回のプログラムでは新巻郷で演奏される「I SHINJI」と対になる楽曲と書えらるだろう。

音楽は後半部で大きな展開を見せる。先の効果セッションとリズムで開かれたパートが2回繰り返された後、「エヴァ」では珍しい中古のフルートが金管を促して、シンジの決意を示すようなニュアンスを漂えた第2主題【楽例17】を奏していく。その様を高弦の下降音型が流る構成も美しい。

極めてライブ効果の高そうな一曲だけに、藤原氏による楽団の仕上がりも実に楽しみである。



◎楽例16: E-13より、チェロ

◎楽例17: E-13より、フルート

X

拾 [エヴァンゲリオン] エスニック・メドレー

SELECTIONS
FROM
ETHNICAL THEME
FOR "EVANGELION"

PIPERLINE CASE A-4
MOTHER IS THE FIRST OTHER A-10



『エヴァンゲリオン』は、シリーズの後半から「人の心」というテーマが前面に表現されるようになった。登場人物の内的宇宙が舞台になる事も多く、A-4とA-10は常に内的宇宙のシーンで使用された。

シンセのヴォーカリーズとパーカッションのみで演奏されるA-4は、第拾四話「ゼーレ、魂の座」Bパート最初の、「山、重い山。空、青い空……」というレイのモノローグで始まる彼女の内的宇宙でのシーンがファンには印象的だろう。他には、第拾六話「死に至る病、そして」、第拾拾話「心のかたち 人のかたち」、第拾拾伍話「終わる世界」、最終話「世界の中心でアイを叫んだけども」のシンジの内的宇宙のシーンで使用。ヴォーカリーズのパートのみを抜き出したA-4シンセボイスのみ「Do you love me?」も、第拾拾話、最終話等で効果的に併用されている。間違いなく『エヴァンゲリオン』を代表する音楽の一つである。

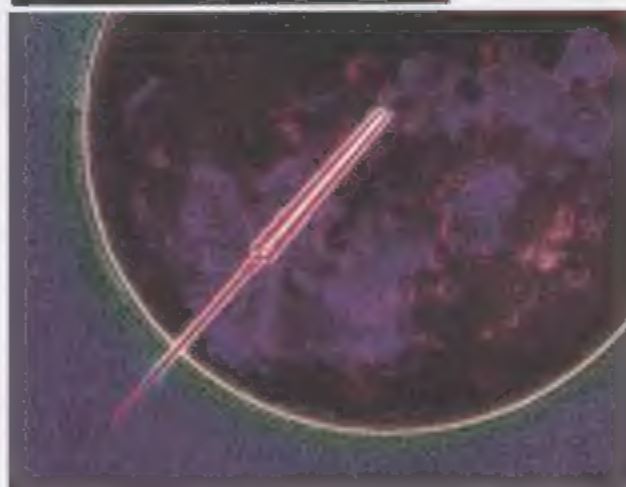
一方、A-10は、第拾六話「死に至る病、そして」と第拾拾話「心のかたち 人のかたち」で、ともにシンジが内的宇宙で母親のイメージに触れるシーンで使用された。ブルガリアン・ボイス風のシンセ・ヴォーカルが、重厚なシンセのハーモニーに乗ってノスタルジックに広がっていく。こちらもヴォーカルのみのヴァージョンが存在し(アルバム収録タイトル「Splitting of the Breast」)、最終話で完全な空白(自由)の内世界をシンジが浮遊するくだりに用いられている。

これら、オリジナルではシンセを中心に形作られた楽曲が、フルオーケストラと生の合唱によっていかなる新世界を見せてくれるか、ファンにとって興味は尽きないことだろう。



XII

FLY ME TO THE MOON
MUSIC AND LYRICS
BY BART HOWARD



拾貳

FLY ME TO THE MOON

「エヴァンゲリオン」の各話のエンディングテーマである「FLY ME TO THE MOON」は、有名なスタンダード・ジャズ・ヴォーカルのカバーである。

54年にフェシリア・サンダースによって初めて歌われた際は「IN OTHER WORDS」のタイトルで、リズムもワルツを基調としたものだった。吹き込みはフェシリア・サンダースではなく、キー・バラードがデッカで同年に行っている。やがて、ジョー・ハーネルが現在の曲名に改題、リズムもボサ・ノヴァに改めた'62年のキャップレコード版が大ヒット(同年のグラミー賞を最優秀ダンス音楽部門で受賞)。その後、'65年のトニー・ベネット、カワント・ベイシー楽団とフラング・シナトラなど、スタンダード・ジャズの傑作として、数々の名録音が残されている。'69年のアポロ11号の有人月面着陸の際には、船内に本曲が流れていたとの伝説もある。

庵野監督は、「ナディア」の頃から「FLY ME TO THE MOON」を作品のエンディング曲に用いる案をもっており、当初の予定ではクライマックスに月面着陸が想定されていた本作品に於いて、ついに実現の運びとなった。

さらには、その回の雰囲気と合わせたものを使いたいという監督の希望から、アレンジを変え、歌手を変え様々なバージョンが作られており、「エヴァンゲリオン」TV版全26話だけでも、何と14種類もの「FLY ME TO THE MOON」が流された。大森俊之氏の作画によるメイン・バージョンは、CLAIREのヴォーカルでロンドンのアビーロード・スタジオで録音されたものだが、ボサ・ノヴァを基調とした辺りはジョー・ハーネルの直系であると言える。恐らく「FLY ME～」だが、実はボサ・ノヴァアレンジは少数派なのだ。今回のコンサートで、葛原氏とマーティン・ラッセルズ氏は、どんなアレンジを聴かせてくれるのだろうか。



XIII

G. F. HANDEL
Hallelujah
FROM
MESSIAH

拾参

ヘンデル オラトリオ
「メサイヤ」より「ハレルヤ」

○第3拾貳話「せめて、人間らしく」で出現した第15の使徒アラエルは、直接人間の心に攻撃をしかけてくる使徒であった。その心理攻撃は、光と「ハレルヤ」の合唱として表現された。使徒の精神攻撃は、式号機パイロットである惣流・アスカ・ラングレーの心の、開かれた傷口を容赦なく抉る。また、神が人の罪を見逃さず、その力で罰にするように。

使徒、十字架、ロンキアスの種など、「エヴァンゲリオン」は、キリスト教的なモチーフが多い。このエピソードは、あまりに有名なヘンデルのオラトリオの使用により、それが特に顕著になっていた。そして、「エヴァンゲリオン」交響楽にも、この「ハレルヤ・コーラス」でクライマックスを迎える。

